

2026年3月6日

各位

会社名 株式会社ヴァンガードスミス  
(コード番号 511A TOKYO PRO Market)  
代表者名 代表取締役 田中 慶太  
問合せ先 執行役員 管理部長 増田 憲二  
TEL 03-6703-6342  
URL <https://v-smith.co.jp/>

東京証券取引所 TOKYO PRO Market 上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日2026年3月6日に東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場いたしました。今後一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2026年5月期（2025年6月1日から2026年5月31日まで）における当社グループの業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

(単位：百万円、%)

	2026年5月期（予想）			2026年5月期 中間会計期間		2025年5月期（実績）	
		構成比	対前期 増減率		構成比		構成比
売上高	2,189	100.0	47.2	1,055	100.0	1,487	100.0
営業利益	786	35.9	77.8	320	30.3	442	29.8
経常利益	788	36.0	77.5	322	30.5	444	29.9
当期（中間） 純利益	411	18.8	39.8	200	19.0	294	19.8
1株当たり 当期（中間） 純利益	548円95銭			267円13銭		393円96銭	
1株当たり 配当金	—			—		—	

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数（2026年5月期については予定）で算出しています。  
2. 当社は2025年12月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っておりますが、2025年5月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

## 【2026年5月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社全体の見通し

現在のわが国経済は、経済活動の正常化や雇用・所得環境の改善、各種政策の効果により、緩やかな回復基調が続くものと期待されております。

一方で、エネルギー価格など物価上昇の継続など、個人消費など先行きには依然として不透明感が残っており、企業活動を取り巻く環境は、引き続き慎重な対応も求められる状況です。

当社の近隣トラブル解決支援事業においては、少子高齢化の加速、地域コミュニティの希薄化、在留外国人の増加に加え、新型コロナウイルス禍を契機としたテレワークの増加等を背景に、近隣トラブルは増加傾向にあり、また深刻化する傾向にあります。このような状況のもと、当社は主力サービスである「Mamorocca」「Pサポ」「Pサポ+」の受注拡大を推進し、高い水準の相談品質を維持・改善しながら、業容の拡大と収益力の強化に取り組んでまいります。また、不動産事業においては、既存顧客のリピート率を高めながら、新規顧客の獲得により売上高の増加に努めてまいります。

### 2. 業績予想の前提条件

#### (1) 売上高

当社の売上高は、近隣トラブル解決支援事業を中核事業とし、そのほか貸別荘等の不動産業で構成されております。

売上高は、既存の顧客数及び今後の獲得が見込まれる顧客数などをもとに算定しており、2,189百万円（前期比47.2%増）を見込んでおります。

#### (2) 売上原価、売上総利益

当社の売上原価は、取引先等への販売手数料および顧客紹介料などが計上されており、256百万円（前期比8.0%減）、売上総利益は1,933百万円（前期比60.0%増）を見込んでおります。

#### (3) 販売費及び一般管理費、営業利益

当社の販売費及び一般管理費のうち人件費は、主に顧客数の増加をベースとした人員計画をもとに見込んでおります。また、その他の販売費及び一般管理費は、サービス水準の安定化と更なる改善を目的としたシステム増強など経営課題を解決するための個別の取組みのほか、過去の実績に基づき、見積もっております。

この結果、販売費及び一般管理費は1,148百万円（前期比49.9%増）、営業利益は786百万円（前期比77.8%増）を見込んでおります。

#### (4) 営業外損益、経常利益

当社の営業外損益は、過去の実績に基づき、発生が見込まれる営業外損益を算出しており、経常利益は788百万円（前期比77.5%増）を見込んでおります。

#### (5) 特別利益、特別損失、親会社株主に帰属する当期純利益

特別利益に関しましては、該当事項が無いと想定しておりません。

特別損失に関しましては、オフィスの引越費用、上場のために当社事業の適合性（いわゆる非弁行為）について法律事務所にて実施した確認作業に関する費用などが計上されています。

この結果、当期純利益は、法人税等を考慮して411百万円（前期比39.8%増）を見込んでおります。

以 上

2026年5月期 中間決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年3月6日

上場会社名 株式会社ヴァンガードスミス 上場取引所 東  
 コード番号 511A URL <http://www.v-smith.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)田中 慶太  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 管理部長 (氏名)増田 憲二 (TEL) 03(6703)6342  
 中間発行情報提出予定日 2026年3月6日 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年5月期中間期の業績(2025年6月1日~2025年11月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期中間期	1,055	-	320	-	322	-	200	-
2025年5月期中間期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期中間期	267.30	-
2025年5月期中間期	-	-

(注) 1. 当社は2025年11月15日開催の取締役会決議により、2025年12月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益を算定しております。  
 2. 2026年5月期中間期より中間財務諸表を作成しているため、2025年5月期中間期の数値及び対前年同期増減率並びに2026年5月期中間期の対前年同期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年5月期中間期	1,392	703	50.5
2025年5月期	1,160	503	43.4

(参考) 自己資本 2026年5月期中間期 703百万円 2025年5月期 503百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	0.00	0.00	0.00
2026年5月期	0.00		
2026年5月期(予想)		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年5月期の業績予想(2025年6月1日~2026年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,189	47.2	786	77.8	788	77.5	411	39.8	548.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年5月期中間期	748,700株	2025年5月期	748,700株
2026年5月期中間期	一株	2025年5月期	一株
2026年5月期中間期	748,700株	2025年5月期中間期	748,700株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

(注) 当社は2025年11月15日開催の取締役会決議により、2025年12月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期中平均株式数を算定しております。

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	6
(3) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化や雇用・所得環境の改善、各種政策の効果により、緩やかな回復基調が継続しております。

一方で、エネルギー価格などの物価上昇の継続など、個人消費など先行きには依然として不透明感が残っており、企業活動を取り巻く環境には、引き続き慎重な対応も求められております。

当社の近隣トラブル解決支援事業において、少子高齢化の加速、地域コミュニティの希薄化、在留外国人の増加に加え、新型コロナウイルス禍を契機としたテレワークの増加等を背景に、近隣トラブルは増加傾向にあり、また深刻化する傾向にあります。このような状況のもと、当社は主力サービスである「Mamorocca」「Pサポ」「Pサポ+」の受注拡大を推進し、相談員として元警察官を継続的に安定的に採用することで、高い水準の相談品質を維持・改善しながら、業容の拡大と収益力の強化に取り組んでまいりました。

また、不動産事業は、予約サイトの拡充により予約数が増加し、夏季シーズンは高稼働率を記録しました。

これらの結果、当中間会計期間の売上高は1,055,617千円、営業利益は320,140千円、経常利益は322,530千円、中間純利益は200,129千円となりました。

また、セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当中間会計期間は中間財務諸表の作成初年度であるため、前中間会計期間との比較分析は行っておりません。

#### 近隣トラブル解決支援事業

当セグメントにおきましては、新規会員が順調に増加したことに加え、前事業年度より開始した大口顧客との取引が寄与したことにより売上高は、994,239千円、営業利益は332,540千円となりました。

#### 不動産事業

当セグメントにおきましては、前事業年度は修繕及び人材難により宿泊希望日数すべての営業ができなかった物件が当中間会計期間は解消されたことや、予約サイトの拡充により予約数が増加し、夏季シーズンは高稼働率を記録したことにより、売上高は61,377千円、営業損失は12,399千円となりました。

### (2) 当中間期の財政状態の概況

#### (資産)

当中間会計期間末における資産合計は1,392,796千円となり、前事業年度末に比べ232,180千円増加いたしました。これは主に、前払費用が16,613千円減少した一方、現金及び預金が203,489千円、売掛金が19,092千円、有形固定資産が32,099千円、それぞれ増加したことによるものであります。

#### (負債)

当中間会計期間末における負債合計は689,326千円となり、前事業年度末に比べ32,050千円増加いたしました。これは、前受金が29,470千円が減少した一方で、未払費用が48,827千円、未払法人税等が17,546千円、それぞれ増加したことによるものであります。

#### (純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は703,470千円となり、前事業年度末に比べ200,129千円増加いたしました。これは、中間純利益の計上により利益剰余金が200,129千円増加したことによるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、近隣トラブル解決支援事業は新規の顧客数が引き続き順調に増加していることから、売上高は推移しております。一方で、サービス水準の安定化と更なる向上を目的として相談員を中心に増員し、体制強化を進めていることから、オフィス拡張にともなう経費、営業システムの増強に伴う経費や、上場準備に係る経費など、販売費および一般管理費が増加すると見込まれます。

当事業年度(2026年5月期)の業績見通しにつきましては、売上高2,189百万円、経常利益788百万円、

当期純利益411百万円を見込んでおります。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年5月31日)	当中間会計期間 (2025年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	543,003	746,492
売掛金	158,503	177,596
貯蔵品	72	76
未収入金	300	1,116
前払費用	145,292	128,678
立替金	2,297	2,382
前払金	—	3,000
その他	261	—
貸倒引当金	△1,612	△1,612
流動資産合計	848,117	1,057,731
固定資産		
有形固定資産	191,627	223,727
無形固定資産	24,582	34,444
投資その他の資産	96,287	76,893
固定資産合計	312,497	335,064
資産合計	1,160,615	1,392,796

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年5月31日)	当中間会計期間 (2025年11月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	575	8
1年以内返済長期借入金	23,826	23,376
未払金	31,045	33,381
未払費用	33,620	82,447
賞与引当金	30,398	23,159
前受金	370,316	340,846
未払法人税等	61,749	79,295
未払消費税等	27,842	30,111
預り金	16,822	26,372
その他	123	64
流動負債合計	596,320	639,063
<b>固定負債</b>		
長期借入金	56,495	44,807
長期未払金	2,607	2,098
退職給付引当金	1,851	3,357
固定負債合計	60,954	50,262
負債合計	657,275	689,326
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	56,700	56,700
資本剰余金	48,000	48,000
利益剰余金	398,640	598,770
株主資本合計	503,340	703,470
純資産合計	503,340	703,470
負債純資産合計	1,160,615	1,392,796

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)	
当中間会計期間 (自 2025年6月1日 至 2026年11月30日)	
売上高	1,055,617
売上原価	164,369
売上総利益	891,247
販売費及び一般管理費	571,106
営業利益	320,140
営業外収益	
受取利息	494
受取配当金	1
受取家賃	1,861
雑収入	1,053
営業外収益合計	3,410
営業外費用	
支払利息	1,002
雑損失	18
営業外費用合計	1,021
経常利益	322,530
特別損失	
業務適法性検証費用	30,972
特別損失合計	30,972
税引前中間純利益	291,557
法人税、住民税及び事業税	79,371
法人税等調整額	12,055
法人税等合計	91,427
中間純利益	200,129

(3) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。